

オピニオン

合奏楽しむ機会を提供

提言

新年度となり、新たな学生生活に期待と不安の日々を過ごすこの季節。サッカー部に入ろうか、バスケット部に入ろうか、音楽もいいね！吹奏楽部に入ろうか！胸躍る学生時代において「部活動」の存在は大きなものがあります。

私も46年前、上山市立上山中(現上山市立南中)に入學するとともに吹奏楽部に入部し、合奏音楽というものに触れる機会をいただきました。それまで音楽などには、まったく興味を示さず、野球部に入るものだと思っていた父親は、びつくりするやら、がっかりするやら、親不孝の始まりだったのでしょう。



上山ユースバンド・パステルプラスバンド主宰

あいた じゅんいち
相田 淳一

少子化の時代となり、既存のシステム運用に無理があるのではと、感じることも多いこの頃。部活動の在り方も、先生方の部活動にかかる稼働時間の削減が社会の話題となる一方、部活動として成り立たず閉鎖されてしまう活動があるのも現実です。

上山市内には3つの中学校がありますが、その一つである宮川中の吹奏楽部が、数年前に廃部となってしまう前に、最盛期には20数人の部員がいたかと記憶しています。市の音楽会への出演や近所の老人ホームへの訪問演奏など、印象に残る活動を展開していただけに、廃部を聞いた時は同じ市内でアマチュア音楽活動をしている者として、

非常に寂しい気持ちになりました。

宮川地区の少年少女たちは「高校生になるまで部活動としての合奏音楽(吹奏楽等)の機会」を得ることができません。生まれ育った地域により、その機会を選択すること

もできないということが、私が生まれ育ち「その機会」をいただいていた古里にあるという現実に直面しました。果たして「その機会」を得たいと希望する少年少女は、宮川地区にはもういないのだろうか？そう考えるようになり

ました。上山ユースバンド(上山少年少女ブラスバンド)は、去年3月に創設の宣言を行い、管楽器初心者向けの楽器体験

会「コルネットを吹いてみよう」と題したワークショップを、市内で3回開催しました。その中で、参加した子どもや、その保護者から「高校生になって初めて吹奏楽部に入り、小学生や中学生の時から吹奏楽を経験してきた部員の中で活動するのには大きな不安がある」などの声が寄せられました。

市民の中には「その機会」を望む声があることを知り、そして上山ユースバンドはこの春、第一期メンバーである子どもたちによる活動を開始しました。宮川地区の公民館を活動会場にして、この時代でなければ、多くの学友と通学先の学校で、部活動として「合奏音楽」を楽しむたかもしれない子どもたち。なくなつたものを悔やまず、今後は上山ユースバンドが提案する、新たな枠組みによる「その機会」を捉えて

いってほしいと願うところで。その世話役となる大人たちも、これまでの経験とノウハウを生かしながらも、弊害と考える固定観念を見分けながら、子どもたちの可能性に対して大人の思いによる制限をかけることなく、老若男女一緒に演奏活動を展開していきます。英国の町のブラスバンドのように。

小さな小さな活動ですが、地域の皆さまに育てていただきながら「次の世代につながる合奏音楽活動」「地域での活動の循環」を期待して、展開していこうと思います。

現在、新年度第一期メンバーを追加募集しており、多くの皆さまのご声援をお願い申し上げます。問い合わせは上山ユースバンド <http://kaminoyamayouthband.nd.com/> (上山市在住)

次世代 地域で育てる ■ 少年少女が活動できる場